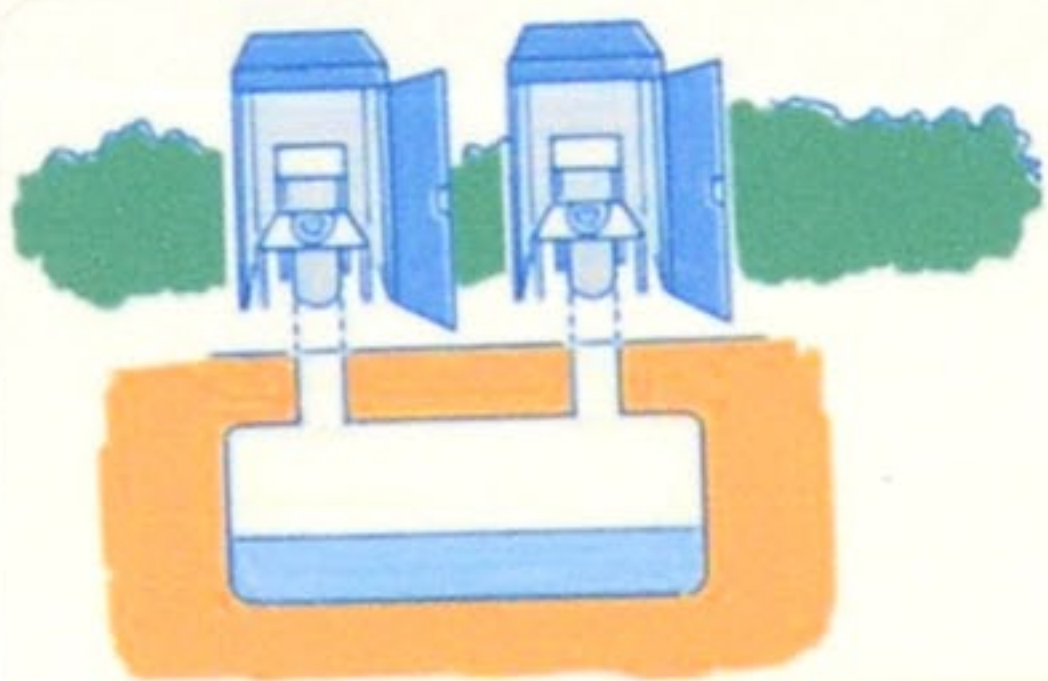
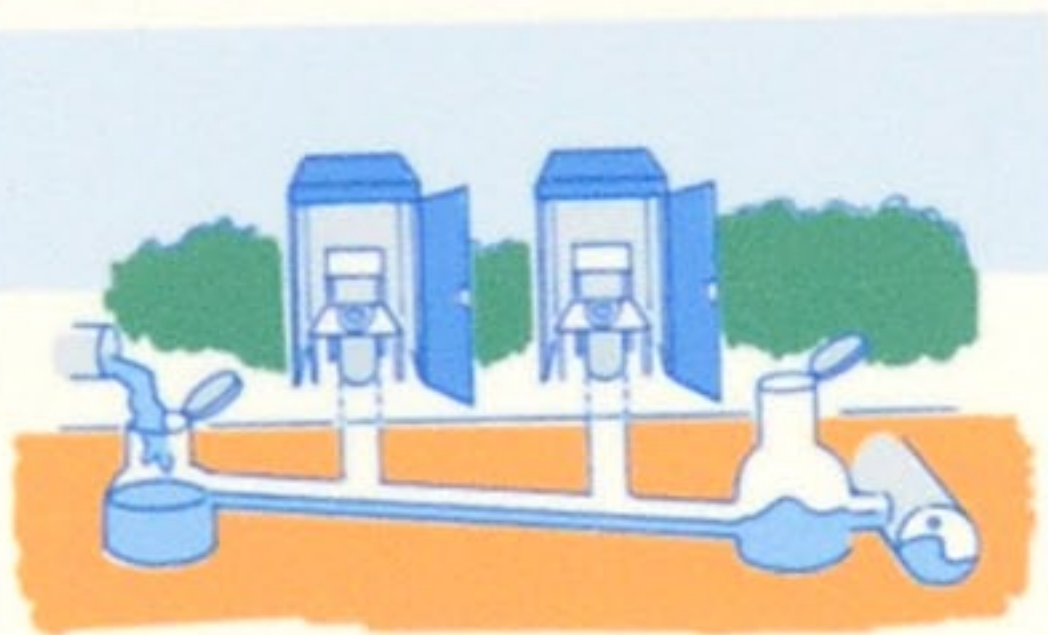


《《火害》が起きたとき どうする?》

トイレ対策

下水道新聞

令和四年八月
災害対策号



マンホールトイレ
(下水道連携型・便槽貯留型)

事前、道路に整備された下水管に、マンホールや貯留槽を設置し、災害発生時にトイレの機能を確保する。

★時間経過や被災状況に合わせて組み合わせる
★必要数を把握する

時間経過や被災状況に合わせて複数タイプの災害用トイレを組み合わせておくことで、トイレを切れ目なく確保することが必要。

発災直後は携帯トイレ、簡易トイレを建物内にトイレに取り付けることが必要。

次にマンホールトイレが整備されていれば、それを準備する。

※トイレの個数(目安)

災害発生当初
避難者50人あたり1基

避難が長期化する場合
約20人あたり1基

トイレの平均使用回数
1日5回

※携帯トイレの必要数

1日あたり必要な便袋の枚数
最大想定避難者×5

携帯トイレの備蓄目標数
1日あたり必要な便袋数×日数

※マンホールトイレ 1基あたりの使用想定人数

50人~100人が目安

参考資料: 日本トイレ研究所

わたしのまち MORIYA 守谷市 下水道 NEWS

2022年春、守谷駅東口に
オープンした商業施設
「ランチ守谷」



〈整備済の下水道とマンホールトイレ〉

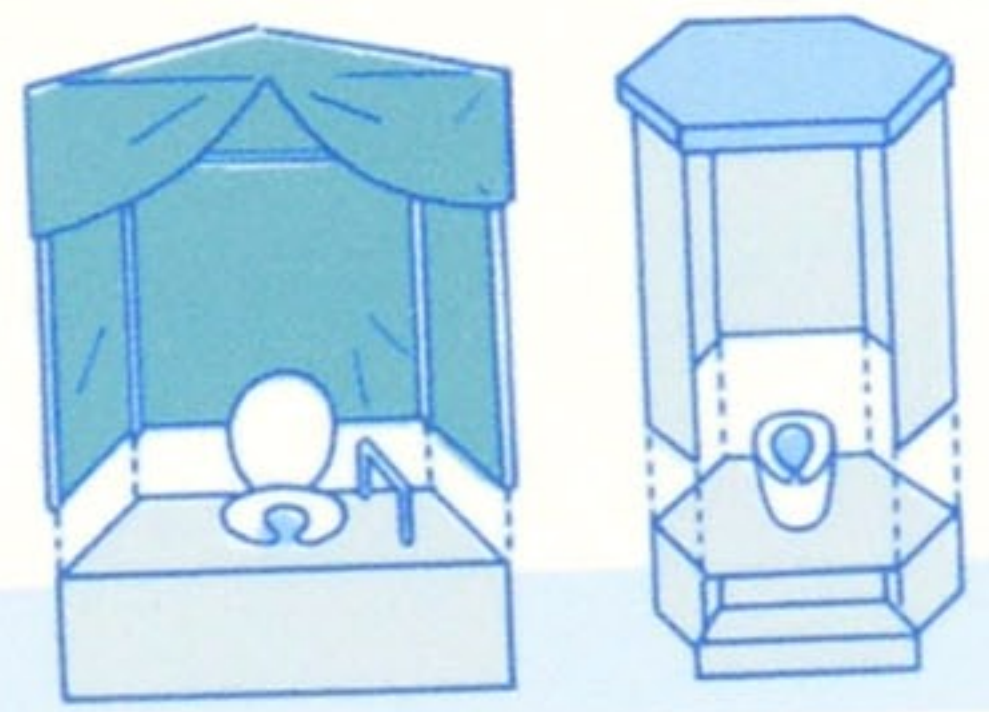
約1700㎡の芝生広場には災害時にマンホールの上に便座やパネルを設けトイレとしての機能を確保している。
また、「かまど」として炊き出しを行うことができるベンチを設けている。

9月10日 下水道の日

いつ発生するか分らない災害時に、どうして必要になるトイレ対策知識を今おさえておこう



仮設トイレ
(ボックス型・組立型)

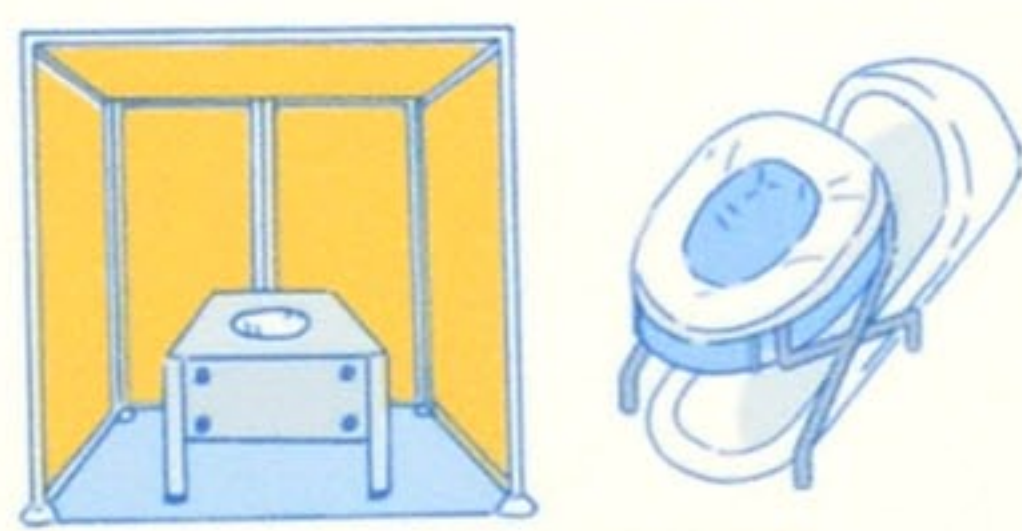


衛生関連製品



災害対応型便器

断水時等に貯留型に切り替えられる。断水時等に貯留型に切り替えられる。断水時等に貯留型に切り替えられる。



簡易トイレ

移動可能な便座部を備えた簡易トイレは、災害時に活用できる。



携帯トイレ

断水や排水不可とならないように、断水時等に貯留型に切り替えられる。断水時等に貯留型に切り替えられる。